



八代市社会福祉協議会職員
 熊本YMCA リソース推進委員 山田 芳之 さん

この生き方でよかった

セーフティネットのすきまにある問題

山田さんが相談支援員の仕事を続ける中で特に気にかけているのは「8050問題」。ひきこもりは長く「若者の問題」とされてきましたが、現在では80代の親が50代の子どもの生活を支えるというひきこもりの長期高齢化が社会問題となっています。以前は15歳～39歳でしか統計が出されず、ひきこもり状態にある人は54万人とされていました。2019年に政府が行った調査では40歳～64歳のひきこもり状態の人が推計で約61万人いることが分かりました。「ひきこもりの長さやきっかけは様々。本人の発達障がいも関係しているケースもあります。一方で、離婚や失業がきっかけになって40代からひきこもってしまい、高齢の親に支援してもらっている人も少なくありません。親は悩んでいます。でも、SOSを出してくれる人はまだいい。お宅を訪問しても、支援を拒否されるケースだったたくさんあります」。昨年1月、山田さんはひきこもりの子を持つ親が語り合う「ひなたdeカフェ」という会を立ち上げました。

実は、山田さん自身も長男のひきこもりと向き合ってきました。「息子は22歳から11年間ひきこもりでした。高校卒業後に就職した会社で人間関係や慢性的な残業に耐えられなかったんです。数年前に『自閉症スペクトラム』の診断を受けて障害者手帳を取得し、今はガソリンスタンドの仕事をがんばっていますよ。例えば、障がいの診断を受ければ利用できる支援があります。いつも感じているのは、そのセーフティネットの仕組みが利用できるかできないかぎりぎりの、いわばセーフティネットの『すきま』にいる人たちがまだまだたくさんいるということ。彼らに手を差し伸べることができない。これは社会と私たち一人ひとりが真剣に考えるべき問題です」。

天職との出逢い

YMCAのボランティア活動の場では、しばしば仲間たちから「ひょうきん者」と評される山田さんですが、社会問題への取り組みは真剣そのもの。「今になって思うと、この仕事は『天職』なのかもしれません。僕はこの5年間で600人以上の人たちと関わってきました。生活に困っている人が自立への一歩を踏み出した時にやり甲斐を感じますし、「この生き方でよかった」と思えます。でも、仕事で『人を救っている』とは思っていません。ともに歩む、という姿勢です。ボランティアも『自分はいいいことをやってるんだ』という気持ちではないんです。YMCAに行くと、みんな一生懸命頑張っているじゃないですか。そういう多くの人たちとの出会いの中で『学ばせてもらっている』という思いが強いんですね」。

「新型コロナウイルスの影響で生活困窮の相談が増えている」と山田さん。八代市は7月、豪雨災害にも見舞われました。「セーフティネットのすきまからこぼれおちるかもしれない人へのケアはYMCAの活動とも重なるところ。これからも自分にできることを続けていきます」。



YMCAチャリティーランで力走する山田さん

ある日、仕事を失った

山田芳之さん(60歳)は、36歳の時に知人の紹介でYMCAに出逢い、これまで仕事の後や休日にボランティア会員として活動してきました。八代市社会福祉協議会で生活困窮者の相談業務にあたる山田さんが、相談支援員として勤務するようになったのは5年前。様々な紆余曲折や挫折を経てたどり着いた現在の仕事に注ぐ思い、YMCAとのつながりについて話を聞きました。

宇城市出身。一浪して早稲田大学に合格した山田さん。しかし、東京の大学に行く同級生には親が田畑まで売って学費を工面した人もいたという時代。家族に迷惑はかけられないと地元の熊本大学に進学します。その後も山田さんの人生は決して順風満帆ではありませんでした。「大学は3年半で中退しました。『なんだか違うな』と思ったんでしょうね」。社会人となって、不動産、コンピュータ関連などの会社に勤めた後の



会社経営時代の山田さん

1990年代、福祉とICTを組み合わせ、当時においては画期的な会社の立ち上げに関わります。19年間、経営に携わってきた山田さんでしたが――。「ある日、自分が全く知らないうちに会社が売却されてしまったことを知りました。突然、職を失ったわけです」。

Pickup

上手に潜れた！
 夏休み水泳教室



楽しく走れた！
 益城町総合体育館
 大村詠一さんとスポーツ
 &レクリエーション

土星の環が見えた！
 リフレスおおむた
 夏の星空観望会



Information

行こう 見よう 深めよう

9月20日~21日

リフレッシュ ヨガキャンプ in Aso Camp

天素体流ーテンスタイラー代表の山本朋慧さんを迎え、1泊のヨガキャンプを行います。阿蘇のさわやかな秋風の中、ゆったりとした時間を過ごしてみませんか？
ヨガ初心者の方大歓迎です。

回9月20日(日)~21日(月) 場YMCA阿蘇キャンプ(阿蘇市車帰) ※現地集合(赤水駅からの送迎可)
回18歳以上(学生は保護者の承諾が必要)
回15名 ※お申し込みは先着順とし、定員になり次第締め切ります。 回15,000円(保険料含む)／ヨガマットレンタル300円
回Web受付 回YMCA阿蘇キャンプ
Tel 0967-35-0124



[講師プロフィール]

山本 朋慧さん 天素体流ーテンスタイラー 代表

受講者のメンタルヘルスに働きかけ、本来の自分に気づきをもたらし、腑に落ちる指導が好評を得ている。体感を通して、肉体の健康だけではなく、心と魂のトータルアプローチとバランスを整える実践法を提案している。企業でのコミュニケーションセミナー、メンタルコーチ、心理学講師、瞑想講師、ヨーガ講師として、国内外で活躍中。

自然
×
ヨガ

9月12日・19日・26日

2020年7月熊本豪雨
災害ボランティア募集豪雨
×
支援

発災から2カ月が経過した今も、なかなか人的支援が行き届かない球磨村。新型コロナウイルスの影響により県外からのボランティア受け入れが規制され、人手が不足する中、多くの住民が苦境に立たされています。YMCAに連なる私たちが立ち上がり共に支援活動に汗を流しましょう。

回9月12日・19日・26日(土)9時~15時(時間は天候等の状況により臨機応変に対応) 回活動場所 球磨村被災地
回熊本県在住の18歳以上の方(YMCA会員、その他有志)
回集合解散 YMCA中央センター(熊本市中央区新町)7時集合
18時解散予定 ※YMCA公用車・バスを利用
回参加者数 毎回5~10名程度 回Web受付
回各実施日の週の火曜日
回桃田運動公園 Tel 0968-75-1314(担当松田)
※活動内容や準備物等の詳細はWebで。



スケジュール

1日目

13:00 開所式
13:15 チェックイン、アイスブレイク
14:00 水源散策 フリータイム
※ゆっくりおすごください
15:00 青空ヨガ
17:00 BBQ、懇親
20:00 入浴、フリータイム

2日目

7:00 朝ヨガ
8:00 朝食
部屋の掃除
9:30 チェックアウト
天空ヨガ
12:00 閉所式 解散

※状況により変更になる場合があります

YMCAウエルネス

無理なくはじめて運動不足を解消
秋からはじめる!心と身体の健康づくり

「筋力がない」、「冷えやだるさを改善したい」、「多忙でストレスフル」などの悩みを抱える皆さんにおすすめのYMCAウエルネス。対象期間に入会申込みの方に限り初回1カ月は特別料金で参加できます。

回9月1日(火)~10月31日(土)

場①みなみセンター

(熊本市南区田迎) Tel 096-378-9370

②むさしセンター

(合志市) Tel 096-248-6334

③ながみねファミリーセンター

(熊本市東区長嶺南) Tel 096-385-0676

回初回1カ月 ①みなみ・②むさし3,900円
(通常8,840円)／③ながみね2,900円(通常6,470円)

回16歳以上の方

回お申込みには条件があります。詳細はWebで。



英会話と世界のことば

秋のお気軽コース10月開講
無料体験レッスン受付中

YMCA英会話と世界のことば「秋のお気軽短期コース」では初めての方から上級者まで、10回セット(一部は5回)の様々なコースをご用意しています。まずは無料体験レッスンにお申込みください。



回・熊本紹介 ~英語でおもてなし~<中級~上級>

・シンプルに学ぶニュースな英語<初級~中級>

・旅の語学シリーズ~フランス語、スペイン語、中国語~
<初級~中級>

(以上、中央センター)

・いまからはじめるかんたん英会話入門<入門~中級>

(中央センター・みなみセンター・むさしセンター)

その他、数コースあり。詳細はWebで。

回YMCA Language School

Tel 096-352-2344



R | E | P | O | R | T

[8月4日⇒ 8月8日]

平和

ノーベル平和賞受賞ICAN 事務局長とユースが対話

広島YMCAが原爆の日に合わせて毎年開催している国際青少年平和セミナーが新型コロナウイルス感染拡大により中止になったことを受け、セミナーのため来日予定だった非政府組織ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)の事務局長ベアトリス・フィンさんがいるジュネーブと日本をリモートでつないだ平和学習会「ベアトリスに聞いてみよう!」が8月4日(火)に行われました。全国のYMCAからユースやスタッフなど約60名、熊本YMCAからも熊本大学YMCA花陵会の3名が参加しました。

ユースによる平和活動の報告の後、フィンさんから「核兵器廃絶に向けてYMCAユースに望むこと」をテーマに、力強いメッセージが伝えられました。質疑応答では、熊本のユースが今後の具体的な核廃絶活動計画について質問すると、フィンさんがわかりやすく答えてくれました。ICANは2017年にノーベル平和賞を受賞。熊本大学大学院の鶴木康平さんは「活動の内容を知り感動しました。本当に貴重な機会を与えられて感謝しています」と話しました。

職員 大宅 登貴子



社会貢献

子どもたちの職業観を醸成 おしごとカフェ

児童養護施設の子どもたちが社会人のイメージも十分でないままに退所期限である18歳を迎える実情を受け、子どもたちの職業観の醸成をサポートしようと、YMCAフィナンソロピー協会は昨年夏、企業説明会「おしごとカフェ」を初めて開催しました。今年は新型コロナウイルスの影響により、オンラインツールを使って8月7日(金)に開催。児童養護施設慈愛園子供ホームの4名の中高生が参加し、県内企業の6社から自社の魅力などの説明を受けました。企業側は自作のフリップやスライドの資料を共

有するなど、それぞれに工夫をし、生徒たちは真剣な表情で話を聞いていました。

初めは緊張していた生徒たちも、「英語を活かせる仕事はどのようなものがありますか」など積極的に質問。初めて参加した近代経営の可村小夜香さんは「これからいろいろな人と出会ってお互いの考え方の違いも楽しめるようになったらいいと思います」と生徒たちにエールを送りました。

今後に向け、「おしごとカフェ」に協力が可能な企業・団体を募っています。

職員 原美幸



体験

あこがれの仕事を体験 YMCA学院オープンキャンパス

YMCA学院では、進学を検討している高校生たちを対象に、オープンキャンパスを実施。毎回、各学科が趣向を凝らした体験授業を行っています。

8月8日(土)は年に1度の拡大版。新型コロナウイルスの影響で、時間を短縮したものの、多くの高校生、保護者らが参加しました。

ホテル観光科は在校生5名とともにKKRホテル熊本を訪問し、ノンアルコールカクテルづくりに挑戦。当学科の講師も務める実際のホテルスタッフから、味や香りの大切さ、コロナ禍での衛生管理につい

て説明を受け、カクテルを作りました。すでに授業で練習をしている在校生は慣れた手つき。緊張していた高校生たちも自分たちのカクテルが出来上がると「きれいで美味しい」と感激した様子でした。体験授業を終えた参加者たちからは「ホテルの素敵な雰囲気を感じることができた」「先輩とたくさん話ができて参考になった」などの感想が聞かれました。YMCA学院Webサイトでは他学科の様子も報告しています。



岡 総主事の
タラント
Vol.72

自分を守る力

終息の兆しが見えない新型コロナウイルスに対して、私たちは3密を避け、新しい生活様式を続けています。感染症対策においては今までとあちこちの考え、生活を改めなければいけません。一方で、買い物、娯楽、スポーツ、公共交通機関の利用、食事、イベントへの参加や働き方など日常生活での制約は私たちのストレス

になり、様々な弊害も表れています。

緊急事態宣言の発出により行動が制限され、「テレワーク」「ステイホーム」といったことが一般的になりました。健康的な生活を送るために必要な「栄養」「運動」「休養」のバランスを保つのが難しい我慢の時期でした。私たちの身体は正直で、どこかが悲鳴をあげ、歪みをもたらします。手洗いや消毒に加えて、体に侵入する「ウイルス」に立ち向かえるよう、免疫力を高めて備えたいものです。

免疫とは、私たちの体の中に侵入してきた細菌やウイルスなどの異物を排除して、病気にならないようにする自己防衛システムです。つまり、人間が生まれながらにして持っている、自分で自分を守る力と言えます。たとえば、風邪で

鼻水やのどの痛み、咳、熱が出る、という症状はすべて体内で免疫細胞がウイルスに打ち勝つために免疫システムが正常に働いている証拠なのです。

コロナ禍で、外出する機会と運動する習慣が減ってしまいました。特に子どもの基本的な生活習慣の乱れによる、学力・体力・気力の低下が懸念されます。経済活動を維持するためにウイルスとの共存共生が必要であると言われる中では、正しく恐れ、感染対策と免疫力向上を同時に行っていくことが重要です。秋が来て、やがてインフルエンザなどが心配な季節になります。感染症に負けない身体づくりを今から始めませんか。YMCAが皆さんの心と体のバランスを整えるお手伝いができることを願っています。

talanton

サマーキャンプ 2020

今年は子どもたちを対象に4つのデイキャンプ、親子を対象とした1泊のファミリーキャンプを実施しました。



カニをつかまえた!



クワガタもいたよ



わ、割れるっ



バーン!!

お水が気持ちいい!!



親子で火おこしに挑戦だ!



木陰でのんびり

2020年7月熊本豪雨

熊本YMCAでは、YMCA学院の学生たちを中心に継続的に災害支援ボランティアを派遣。8月末までに延べ130名以上が参加しました。学生からは「現地を見てショックを受けた。自分たちにできることをやろうと思って取り組んだ」などの感想が寄せられています。また、8月22日からは、ピースボート災害支援センターや全国のYMCAと連携し、球磨郡多良木町に開設された避難所の運営を担っています。



みなさまからの募金はこれらの活動のほか、被災した子どもたち、若者たちの支援等に用いられます。引き続きご支援をお願いいたします。

2020年7月
熊本豪雨災害
特設ページ



図 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397

わたしと聖句

マタイの福音書 7章12節

ですから、人にしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。(新改訳2017)

三度目のボランティア

7月4日(土)未明、熊本県の山間を流れる球磨川は短時間に集中した豪雨のために数カ所で氾濫を起こし、人吉市、球磨村、八代市坂本町、芦北町の各地に甚大な被害をもたらした。私たちの教会ではすぐに被災地のために祈り、支援献金を募り始めた。その中で、7月23日(祝日)に人吉市の大柿地区でボランティアをする機会が与えられた。

お伺いしたお宅は二階の畳の上数十センチまで浸水し、家財道具のほとんどは使用できない状態であった。当家の老兄姉は避難所に身を寄せておられる中で、復旧活動に参加しておられた。数十年にわたって積み上げてきたものが一瞬のうちに失われ、その中からの

再起は周囲の支援を得ながら長期に及ぶものと推察された。

私のボランティア活動は三度目を数える。一度目は1995年1月17日の阪神淡路大震災である。その年の1月から開始した伝道所を支援する形で、近隣の方々の必要に応える活動の一端に数日間参加させていただいた。発災から一カ月以上たつのに、ライフラインは復旧しておらず、現地の方々は全国からの支援が大きな生活の支えであった。

二回目は2011年3月11日の東日本大震災の際、当時の岐阜県からマイクロバスに4人で乗りこみ支援物資を石巻市と三陸町に届けた。現地の惨状は目を疑うような光景であり、世界からの支援物資が仙台市の倉庫に山と積まれていた。

そして三回目が今度の水害被災地でのボランティアであるが、その前に2016年4月、自分たち自身が被災者となった熊本地震があった。あの時は外部からの支援がどれほどありがたいものであるかを、痛切に感じた。今度の水害支援も主に支えられながら、息長く続けさせていただこうと願っている。

バイブルプロテスタント 帯山聖書教会
限上正敏

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡 成也 編集協力／pros creative
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2020年度基本聖句

テサロニケの信徒への手紙一 5章13節
愛をもって心から尊敬し 互いに平和に過ごしなさい。